

平成 26 年 9 月 4 日
 千葉県健康福祉部
 疾病対策課
 043-223-2672

感染症予防のための情報提供について

病名	デング熱（国内感染症例）		
住所	市川市	年齢・性別	20歳代 ・ 女性
症状等	頭痛・発熱・筋肉痛・ 発疹・血小板減少・ 白血球減少	行動歴等	1か月以内の海外渡航なし 8月22日に代々木公園周辺を 訪問
発病年月日	平成26年8月31日	届出年月日	平成26年9月4日

市川市在住の20歳代の女性が、8月31日に頭痛、発熱、咳を呈し、9月1日に市川市内の医療機関を受診した。

症状改善せず、9月4日に浦安市内の医療機関を紹介され同日入院となった。

同日、千葉県衛生研究所で実施した血液検査の結果から、デング熱と診断され、医療機関から市川保健所にデング熱の発生届があった。

当該患者に対する調査の結果、1か月以内の海外渡航歴はなく、8月22日に代々木公園周辺を訪問していたことを確認した。

〔患者発生の経過〕

8月22日 代々木公園周辺を訪問。

8月31日 頭痛、発熱、咳を発症。

9月1日 市川市内の医療機関を受診したが、症状改善せず。

9月3日 市川市内の別の医療機関を受診。

9月4日 上記医療機関を受診し、浦安市内の医療機関を紹介され受診。入院となった。

同日 県衛生研究所の検査結果によりデング熱と診断され、医療機関より市川保健所が発生届を受理。

〔県内の発生状況（デング熱届出数）〕

*（ ）内は国内感染症例

	H21	H22	H23	H24	H25	H26
千葉県	7	27	4	14	20	9（3）
全国	93	244	113	221	249	—

（平成26年の千葉県分は9月4日現在（本件分を含む）。全国分は集計中。）

（県民の皆様へ）

戸外に出るときは、長袖、長ズボンを着用するなど肌の露出をなるべく避け、虫さされ防止薬を適正に使用するなど、蚊にさされないような工夫を心がけてください。

蚊に刺された後、3～7日程度で高熱がみられた時は、早めに医療機関を受診して下さい。

また、デング熱に関するご相談は、最寄りの保健所へ御相談下さい。

【参考】

デング熱とは

1 発生状況

- アジア、中南米、アフリカなど熱帯・亜熱帯に広くみられる。
- 60年以上、国内における感染報告はなかったが、2014年8月以降報告が続いている。

2 感染経路

- ヒトからヒトの直接的な感染はない。
- 患者を刺し、ウイルスを保有した蚊が媒介して感染が広がる。

3 潜伏期間

- 3～7日が多い。

4 症状

- 突然の発熱、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹。
- 感染しても発症する頻度は10～50%。
- 予後は比較的良好だがまれに重症化することがある。
- 潜伏期間は2～15日と言われており、多くは3～7日で発症する。

5 治療

- 対症療法を行う。
- 有効な抗ウイルス薬はない

6 予防法

- 長袖、長ズボンを着用し、素肌でのサンダル履き等は避ける。
- 虫除け剤の使用等によって、屋外だけではなく屋内でも蚊に刺されないように注意する。
- 室内の蚊の駆除を心がける。
- 蚊幼虫の発生源を作らないように注意する。
- 有効なワクチンはない